民間教育訓練機関の
皆様へ

ハロートレーニング
急がば学べ

求職者支援訓練の認定基準が一部緩和されます

令和2年7月
以降開講科
から適用予定

緩和措置の内容

①「実践コース」の一部について、２か月コースの設定が認められます。
＜２か月で設定可能な訓練コース（令和２年４月時点）＞
〇介護職員初任者研修対応コース（介護職員初任者研修修了）
〇生活援助従事者研修対応コース（生活援助従事者研修修了）
〇医療事務従事者対応コース（任意受験）
①医療事務技能審査試験　②医療事務管理士技能認定試験
③調剤事務管理士技能認定試験　④医療事務検定試験
⑤診療報酬請求事務能力認定試験

②「短時間訓練」について、不安定な就労状態にある在職者の方も受講対象者となる（判断はハローワークが行います）よう拡大されます。また、１日最短３時間での訓練の設定が可能となります。

お問い合わせ先
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
Japan Organization for Employment of the Elderly, Persons with Disabilities and Job Seekers
大阪支部求職者支援第一課　TEL：06－6383－0981

「就職氷河期世代支援プログラム」等に基づく求職者支援訓練におけるコース設定の要件緩和等について

「就職氷河期世代支援プログラム」とは・・・

いわゆる「就職氷河期世代」は、雇用環境が厳しい時期に就職活動を行った世代であり、希望する就職ができず、現在も、不本意ながら不安定な仕事に就いている、無業の状態にあるなど、様々な課題に直面している方がいます。
これら就職氷河期世代の正規雇用者を30万人増やすことを目指し、政府を挙げて３年間集中的に取り組むこととして令和元年６月の骨太の方針2019に盛り込まれたのが「就職氷河期世代支援プログラム」です。
※参考　経済財政運営と改革の基本方針 2019 （令和元年６月２１日閣議決定）
https://www5.cao.go.jp/Keizai-himon/kaigi/cabinet/2019/2019_basicpolicies_ja.pdf

求職者支援訓練認定基準の一部緩和等について

「就職氷河期世代支援プログラム」を着実に実行するため、令和元年12月23日に就職氷河期世代支援の推進に関する関係府省会議において、「就職氷河期世代支援に関する行動計画2019 」が決定され、公表されました。
この行動計画には「求職者支援訓練の訓練期間等の下限の緩和」が盛り込まれており、就職氷河期世代を含めた安定就労を目指す方々が、個々人の状況に応じて安定就労に有効な職業能力等の習得ができる訓練コースの設定が可能となるよう、厚生労働省において、認定基準の改正を行うことが予定されています。
※参考　就職氷河期世代支援に関する行動計画2019
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/shushoku_hyogaki_shien/keikau2019/index.html

実践コースにおける訓練期間の下限緩和

実践的な技能等を習得の上、就職に直結する資格を取得できる特定の訓練コース（※）については、訓練期間の下限を緩和する（現行3月以上を2月以上とする）。
※特定のコースとは、以下7つの資格取得に係るコースに限定されており、これ以外の実践コースは3か月以上で設定する必要があります。（対象コースは今後、増える可能性があります。）。

①介護職員初任者研修修了　②生活援助従事者研修修了
③医療事務技能審査試験　④医療事務管理士技能認定試験
⑤調剤事務管理士技能認定試験　⑥医療事務検定試験
⑦診療報酬請求事務能力認定試験（③～⑦任意受験）

訓練時間の特例（短時間訓練）の改正

ハローワークが必要性を認めた在職者等（※）を対象とした訓練コースを設定する場合、訓練時間の特例措置（1日あたり原則3時間以上6時間以下、1月あたり80時間以上とする）の対象とする。
※複数の事業所で働く者・いわゆる非正規雇用労働者など在職中の者や、育児や介護中の者など受講にあたって訓練時間に特に配慮を要する者
【新たに設定可能となるコース例】
週あたり平日夜間3H×5日＋土で5H
（月～金18時～21時＋土9時～15時（1H昼休憩））

これらの緩和措置は、「就職氷河期世代支援プログラム」等に基づくものですが、適用される訓練の受講者を就職氷河期世代に限定するものではありませんのでご注意ください。

※具体的な申請手続きについては、「求職者支援訓練の認定申請書を提出するに当たっての留意事項（令和２年３月上旬更新予定）」（ http://www.jeed.or.jp/js/shien/shinsei.html ）をご覧ください。
※訓練カリキュラムの作成例等の提供をご希望の方は、機構支部までお問合せください。

※令和2年4月作成

認定様式第5号

訓練カリキュラム（案）

訓練実施機関名：

訓練の種別		基礎コース　（　　）			就職を想定する職業・職種
	✔	実践コース　（ 05 介護福祉分野　）			
建設人材育成コース（※基礎コースのみ）	職場復帰支援コース（※基礎コースのみ）		託児サービス支援付訓練コース	短時間訓練コース	訪問介護職、施設介護員
訓練科名	介護職員初任者養成（2か月）科 ※40文字以内で記入してください。				
募集期間（予定）	令和　年　月　日　～　令和　年　月　日				
選考日（予定）	令和　年　月　日				
選考方法	✔ 面接	✔ 筆記試験		その他（　　）	
選考結果通知日	令和　年　月　日				
訓練期間	令和　年　月　日　～　令和　年　月　日　（ 2 か月）　（訓練日数　日）				
訓練時間	時　分　～　時　分			訓練定員	名
訓練対象者の条件	特になし				
訓練推奨者（特定の者を想定する場合のみ）	新規学校卒業者	ニート等の若者	障害者	母子家庭の母等	
	被災者	外国人	その他（　　）		
訓練目標（仕上がり像）	介護事業所において上司の指示を受けながら訪問介護及び施設介護の基本作業並びに施設内の簡易な掲示物の作成ができる。				

訓練修了後に取得できる資格			
名称（ 介護職員初任者研修修了	）認定機関（ 〔訓練実施機関〕	）	任意受験
名称（	）認定機関（	）	任意受験
名称（	）認定機関（	）	任意受験
名称（	）認定機関（	）	任意受験
名称（	）認定機関（	）	任意受験

訓練内容

訓練概要：訪問介護や施設介護における入浴・排泄・食事等の身体の世話、食事・洗濯・炊事等の日常生活の自立支援に関する知識及び技能・技術を習得する。

	科目	科目の内容	訓練時間
学科	安全衛生	心身の健康管理、整理整頓の原則	1時間
	職務の理解	多様なサービスの理解、介護職の仕事内容や働く現場の理解	6時間
	介護における尊厳の保持・自立支援	人権の尊厳を支える介護、自立に向けた介護	9時間
	介護の基本	介護職の役割、専門性と多職種との連携、介護職の職業倫理、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護職の安全	6時間
	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	介護保険制度、障害者自立支援制度及びその他制度、医療との連携とリハビリテーション	9時間
	介護におけるコミュニケーション技術	介護におけるコミュニケーション、介護におけるチームコミュニケーション	6時間
	老化の理解	老化に伴うこころとからだの変化と日常、高齢者と健康	6時間
	認知症の理解	認知症を取り巻く状況、医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、家族への支援	6時間
	障害の理解	障害の基礎的理解、障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識、家族の心理、かかわり支援の理解	3時間
	こころとからだのしくみと生活支援技術（基本知識）	介護の基本的な考え方、介護に関するこころのしくみの基礎的理解、介護に関するからだのしくみの基礎的理解	12時間
	振り返り（知識）	振り返り、就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2時間
	修了評価	筆記試験（介護職員初任者研修事業実施要綱に基づく全科目筆記試験）	1時間
	就職支援	職務経歴書の書き方、履歴書の書き方、面接における留意事項	18時間
実技	こころとからだのしくみと生活支援技術（生活支援技術）	生活と家事、快適な居住環境整備と介護、こころとからだのしくみと自立に向けた介護（整容、移動・移乗、食事、入浴、清潔保持、排泄、睡眠）、終末期介護	51時間
	こころとからだのしくみと生活支援技術（生活支援技術演習）	介護過程の基礎的理解、総合生活支援技術演習	12時間
	振り返り（演習）	介護模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、態度、介護）	2時間
	掲示物作成演習	パソコン基本操作（起動・終了、キーボード操作）、文書作成（文字入力、文章編集、表作成）、掲示物作成、文書の管理	36時間
企業実習		✔ 実施しない　実施する　※実施する場合、カリキュラムは別途作成し、総時間のみ記入してください。	
職場見学、職場体験、職業人講話		【職場見学】①「介護職員（施設介護）の職場」(福)〇〇3H、②「介護職員（訪問介護）の職場」(福)〇〇3H	6時間
		【職場体験】①「訪問介護補助」(福)〇〇6H、②「施設介護補助」(福)〇〇6H	12時間

訓練時間総合計	204時間	学科	85時間	実技	101時間	企業実習	0時間	職場見学等	18時間

受講者の負担する費用		
教科書代	#,###円	合計　#,###円
その他（　　）		
備考（ 職場体験先への交通費は実費 ）		

指導方法

訓練形態（	
施設設備や した効果的	
受講者ごとの特質及び習得状況に応じた指導のための工夫	「講師と受講者」及び「受講者と受講者」の間でコミュニケーションが自然と発生するように、訓練では小グループ演習を積極的に取り入れています。これにより訓練効果が高まるだけでなく、職場で必要となるコミュニケーション力をさらに向上させることができます。

・このカリキュラム等は一例ですので、実際には地域の求人ニーズ等を踏まえて作成してください。
・**令和2年7月以降**に開講する訓練科に適用予定の認定基準等に基づき、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が作成したものです。

認定様式第5号

訓練カリキュラム（案）

訓練実施機関名：

訓練の種別		基礎コース　（　　）			就職を想定する職業・職種
	✔	実践コース　（ 05 介護福祉分野　）			
建設人材育成コース（※基礎コースのみ）	職場復帰支援コース（※基礎コースのみ）	託児サービス支援付訓練コース	短時間訓練コース		訪問介護職、施設介護員（生活援助中心型サービス従事者）
訓練科名	生活援助従事者養成（2か月）科 ※40文字以内で記入してください。				
募集期間（予定）	令和　年　月　日　～　令和　年　月　日				
選考日（予定）	令和　年　月　日				
選考方法	✔ 面接	✔ 筆記試験	その他（　　）		
選考結果通知日	令和　年　月　日				
訓練期間	令和　年　月　日　～　令和　年　月　日　（ 2 か月）　（訓練日数　日）				
訓練時間	時　分　～　時　分	訓練定員	名		
訓練対象者の条件	特になし				
訓練推奨者（特定の者を想定する場合のみ）	新規学校卒業者	ニート等の若者	障害者	母子家庭の母等	
	被災者	外国人	その他（　　）		
訓練目標（仕上がり像）	介護事業所において上司の指示を受けながら生活援助の基本作業並びに施設内の簡易な掲示物の作成ができる。				

訓練修了後に取得できる資格			
名称（ 生活援助従事者研修修了 ）	認定機関（ 〔訓練実施機関〕 ）		任意受験
名称（ 掃除能力検定5級 ）	認定機関（ （一社）日本掃除能力検定協会 ）	✔	任意受験
名称（ ）	認定機関（ ）		任意受験
名称（ ）	認定機関（ ）		任意受験
名称（ ）	認定機関（ ）		任意受験

訓練内容

	訓練概要	訓練概要：訪問介護や施設介護における入浴・排泄・食事等の身体の世話、食事・洗濯・炊事等の日常生活の自立支援に関する知識及び技能・技術を習得する。	
	科目	科目の内容	訓練時間
学科	安全衛生	心身の健康管理、整理整頓の原則	1時間
学科	職務の理解	多様なサービスの理解、介護職の仕事内容や働く現場の理解	2時間
学科	介護における尊厳の保持・自立支援	人権の尊厳を支える介護、自立に向けた介護	6時間
学科	介護の基本	介護職の役割、専門性と多職種との連携、介護職の職業倫理、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護職の安全	4時間
学科	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	介護保険制度、医療との連携とリハビリテーション、障害福祉制度及びその他制度	3時間
学科	介護におけるコミュニケーション技術	介護におけるコミュニケーション、介護におけるチームコミュニケーション	6時間
学科	老化と認知症の理解	老化に伴うこころとからだの変化と日常、高齢者と健康、認知症を取り巻く状況、医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、家族への支援	8時間
学科	障害の理解	障害の基礎的理解、障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識、家族の心理、かかわり支援の理解	3時間
学科	生活支援基礎知識	掃除の基礎知識（洗剤、用具、機械、対象素材、建材、作業動作）、作業における感染防止、介護食の基礎知識（栄養、食品、食品衛生）	24時間
学科	こころとからだのしくみと生活支援技術（基本知識）	介護の基本的な考え方、介護に関するこころのしくみの基礎的理解、介護に関するからだのしくみの基礎的理解	9時間
学科	振り返り（知識）	振り返り、就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1時間
学科	修了評価	筆記試験（介護職員初任者研修事業実施要綱に基づく全科目筆記試験）	1時間
学科	就職支援	職務経歴書の書き方、履歴書の書き方、面接における留意事項	18時間
実技	生活支援基礎実習	各場所（居間・浴室・キッチン・トイレ）における掃除方法、作業時における感染防止策、調理実習（一般食、介護食）	42時間
実技	こころとからだのしくみと生活支援技術（生活支援技術）	生活と家事、快適な居住環境整備と介護、こころとからだのしくみと自立に向けた介護（移動・移乗、食事、睡眠）、終末期介護	15時間
実技	こころとからだのしくみと生活支援技術（生活支援技術演習）	介護過程の基礎的理解（グループワーク）	2時間
実技	振り返り（演習）	生活援助模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、態度、生活支援）	1時間
実技	掲示物作成演習	パソコン基本操作（起動・終了、キーボード操作）、文書作成（文字入力、文章編集、表作成）、掲示物作成、文書の管理	36時間
企業実習	✔ 実施しない　実施する	※実施する場合、カリキュラムは別途作成し、総時間のみ記入してください。	
職場見学、職場体験、職業人講話	【職場見学】	①「介護職員（施設介護）の職場」(福)〇〇3H、②「介護職員（訪問介護）の職場」(福)〇〇3H	6時間
	【職場体験】	①「訪問介護補助」(福)〇〇6H、②「施設介護補助」(福)〇〇6H	12時間

訓練時間総合計	200時間	学科	86時間	実技	96時間	企業実習	0時間	職場見学等	18時間

受講者の負担する費用		
教科書代	#,###円	合計　#,###円
その他（　　）		
備考（ 職場体験先への交通費は実費 ）		

指導方法

訓練形態（	
施設設備や した効果的	
受講者ごとの特質及び習得状況に応じた指導のための工夫	「講師と受講者」及び「受講者と受講者」の間でコミュニケーションが自然と発生するように、訓練では小グループ演習を積極的に取り入れています。これにより訓練効果が高まるだけでなく、職場で必要となるコミュニケーション力をさらに向上させることができます。

・このカリキュラム等は一例ですので、実際には地域の求人ニーズ等を踏まえて作成してください。
・令和2年7月以降に開講する訓練科に適用予定の認定基準等に基づき、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が作成したものです。

認定様式第5号

訓練カリキュラム（案）

訓練実施機関名：

訓練の種別		基礎コース　（　　）			就職を想定する職業・職種
	✔	実践コース　（ 04 医療事務分野 ）			
建設人材育成コース（※基礎コースのみ）	職場復帰支援コース（※基礎コースのみ）		託児サービス支援付訓練コース	短時間訓練コース	医療事務員
訓練科名	医療事務従事者養成（2か月）科 ※40文字以内で記入してください。				
募集期間（予定）	令和　年　月　日　～　令和　年　月　日				
選考日（予定）	令和　年　月　日				
選考方法	✔ 面接	✔ 筆記試験		その他（　　）	
選考結果通知日	令和　年　月　日				
訓練期間	令和　年　月　日　～　令和　年　月　日　（ 2 か月）　（訓練日数　　日）				
訓練時間	時　分　～　時　分			訓練定員	名
訓練対象者の条件	パソコンの基本操作ができる者（PC・ソフトの起動・停止、円滑なキーボード操作）				
訓練推奨者（特定の者を想定する場合のみ）	新規学校卒業者	ニート等の若者	障害者	母子家庭の母等	
	被災者	外国人	その他（　　）		
訓練目標（仕上がり像）	医院において医療事務の基本作業並びに施設内の簡易な掲示物の作成ができる。				

訓練修了後に取得できる資格			
名称（ 医療事務技能審査試験（医科） ）	認定機関（ （一財）日本医療教育財団 ）	✔	任意受験
名称（　）	認定機関（　）		任意受験
名称（　）	認定機関（　）		任意受験
名称（　）	認定機関（　）		任意受験
名称（　）	認定機関（　）		任意受験

訓練内容				
訓練概要		医療機関の外来受付窓口対応、診療報酬請求事務に関する知識及び技能・技術を習得する。		
科目			科目の内容	訓練時間
学科	安全衛生		心身の健康管理、整理整頓の原則	1時間
学科	医療保険制度		健康保険、船員保険、各種共済組合、国民健康保険、退職者医療制度	3時間
学科	高齢者医療制度		制度の概要、特定健康診査、後期高齢者医療給付	3時間
学科	公費負担医療制度		感染症法、生活保護法、学校保健安全法、精神保健福祉法、身体障害者福祉法、障害者総合支援法、児童福祉法、母子保健法、原子爆弾被爆者援護法、特定疾患治療研究事業、難病の患者に対する医療等に関する法律	3時間
学科	介護保険制度		制度の概要、予防給付・介護給付、介護サービスの利用方法、介護保険と医療保険等の関係	6時間
学科	医事法規一般		医療保障制度の基礎用語、医療法、医療保険各法、療養担当規則、関連法規（医師法 等）	12時間
学科	医事業務		医事担当者の心得（個人情報の適切な取扱いを含む）、外来・入院業務、窓口会計業務	12時間
学科	医療用語及び医科・薬学		診療報酬請求業務（医科診療報酬に係わる事項（出来高・DPC制度））、医学一般（各器官系の名称・構造・機能、人体解剖と病理、疾病の原因と治療）、薬学一般（医薬品の種類と薬効分類、各器官系に作用する薬物）、診療録（医科医療用語・略語、その他カルテ読解に必要な事項、電子カルテシステム）	18時間
学科	修了評価・振り返り（学科）		診療報酬請求事務の知識に関する修了評価及び振り返り	6時間
学科	就職支援		職務経歴書の書き方、履歴書の書き方、面接における留意事項	18時間
実技	診療報酬請求事務演習		診療報酬請求書及び診療報酬明細書の作成演習	36時間
実技	外来受付窓口実務演習		患者接遇、受付対応、電話対応、医療費の会計処理、退院事務	30時間
実技	修了評価・振り返り（実技）		診療報酬請求事務の実技に関する修了評価及び振り返り	6時間
実技	掲示物作成演習		文書作成（文字入力、文章編集、表作成）、掲示物作成、文書の管理	30時間
企業実習			✔ 実施しない　実施する　※実施する場合、カリキュラムは別途作成し、総時間のみ記入してください。	
職場見学、職場体験、職業人講話			【職場見学】	①「医療事務員（総合病院）の職場」(医)〇〇6H、②「医療事務員（小規模病院）の職場」(医)〇〇6H	12時間
			【職業人講話】	①「総合病院の仕事」(医)〇〇2H、②「個人医院の仕事」(医)〇〇2H、③「薬局の仕事」㈱〇〇2H	6時間
訓練時間総合計	202時間		学科 82時間	実技 102時間	企業実習 0時間	職場見学等 18時間
受講者の負担する費用			教科書代 #,###円		合計 #,###円
			その他（　）		
			備考（ 職場見学先への交通費は実費 ）		

指導方法		
訓練形態（		
施設設備や した効果的		
受講者ごとの特質及び習得状況に応じた指導のための工夫	「講師と受講者」及び「受講者と受講者」の間でコミュニケーションが自然と発生するように、訓練では小グループ演習を積極的に取り入れています。これにより訓練効果が高まるだけでなく、職場で必要となるコミュニケーション力をさらに向上させることができます。	

・このカリキュラム等は一例ですので、実際には地域の求人ニーズ等を踏まえて作成してください。
・令和2年7月以降に開講する訓練科に適用予定の認定基準等に基づき、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が作成したものです。